

自明治廿八年
至明治三十年

仁龍山間航行小蒸氣船取締規則設立
附同地間航行汽船乘組職員關涉試驗執行方在
仁川領事署囑託案件

外務省

3-2067

0006

公第一二四〇號

七〇二二

龍山號沈没併、當港及龍山間航行、小笠
汽船取締方ノ件

當港在留長、青縣長、青市、所九番、平民、越久、右郎
 所有、小笠、漁、艇、龍山、號、從、未、當、港、上、龍、山、間、航、行、ス、モ
 全、シ、テ、去、七、百、十、一、時、三、分、平、常、如、龍、山、上、發、當、港、
 向、進、行、中、江、津、島、附、近、シ、ヨ、ア、浦、邊、於、漢、洲、乘、り、揚
 ケ、沈、没、セ、リ、當、時、乗、客、日、本、人、三、十、一、名、支、那、人、三、名、韓、人、二、十、六
 名、總、計、六、十、人、ア、リ、毛、折、善、漢、順、明、號、來、救、遭、シ、幸
 一、人、ノ、死、傷、ナ、リ、一、回、無、事、ノ、當、港、歸、着、シ、九、百、一、十、一、日、紙、手、續
 書、二、通、相、添、一、回、船、長、猪、股、龍、松、及、順、明、號、取、扱、店
 市、丸、回、漕、上、右、り、出、テ、九、日、當、館、向、船、長、白、喫、上
 取、調、テ、遂、ケ、ル、家、全、ク、頂、目、未、霖、雨、依、り、漢、江、水、量、著
 シ、増、加、シ、水、路、更、更、ラ、未、夕、從、未、ナ、リ、新、渚、洲、生、シ、
 ル、為、メ、斯、ル、不、幸、陥、リ、ク、ス、有、之、同、船、乗、客、中、三、十、
 回、歸、朝、ノ、命、セ、リ、九、警、視、能、近、查、佐、木、正、官、兵、部、政、吉、
 而、人、モ、便、業、シ、層、其、構、帶、足、較、重、彈、藥、モ、甚、從、自、水、底、
 沈、其、他、乗、客、手、荷、物、類、モ、亦、大、半、流、失、セ、リ、由、船、体、其
 後、車、ヲ、揚、方、盡、力、中、十、何、分、米、為、流、頭、急、流、ナ
 ル、以、テ、甚、困、難、模、様、カ、ル、同、船、長、成、規、免、状、有、セ、カ
 ル、故、單、一、通、リ、尋、問、止、メ、別、道、難、取、附、書、作、ス、九
 モ、同、船、類、三、〇、七、七、七、七、西、洋、形、船、長、核、美、士、免、状、規、見
 據、中、ハ、必、ク、免、状、有、ス、海、員、乘、組、ヲ、要、ス、ル、モ、十、七、日、目、下、當
 港、龍、山、間、航、行、ス、小、笠、漁、艇、前、頭、龍、山、除、キ、他、寶
 圓、丸、正、重、丸、仁、川、號、三、隻、凡、モ、其、内、本、接、査、受、成、規
 ノ、免、状、有、ス、海、員、乘、組、モ、八、廿、夕、正、重、丸、一、艘、過、キ、ス

在朝鮮國傳信局

日本領事館

其他の留當館に於て一時仮に鑑札ヲ下付し其海負を成規ノ免
状ヲ有せしモノト規則固く及應以テ其際志皆處分ノ要ス
ハ次第有之ヲ得得ル當館に於てモ此止或分カ點許ハ迄モ
アリ且成規ノ免状ヲ有ス海負自レ當館ニ甚シク掛度ナク
以テ嚴重ノ處分ヲナシ其結果處ニ當館ト京城間ノ文
通ヲ差止ル現モアリ又漢江ハ絶テ誘引即變ノ航行ニ困難
ノ場所ナリ以テ單ニ免状ヲ有ス者ニハ不充分ニシテ寧日私
船等ニ屢ニ往來シ善水路ニ點度元海負ヲ要ス事事情
等モアリ方一昨權重ノ處至ラ取暫ク既往ノ事ハ追外
セス專ラ向後ノ取締方ニ嚴重ニスルヲ致望申矣
龍山ニ元來一丹港城ニアラテ隨テ條約上我運船如ク航行シ
得サルモノトモ昨手ノ自清事件ノ際出當リ清國運船カ危險
ヲ避クル為メ英國ノ國旗ヲ掲ケテ航行スルニ稅署長ノ敢テ異

在朝鮮國仁川港

日本領事館

議ヲ唱ヘサレシ實例アルト又クソニ留當館ト京城間ノ商業其他
ノ關係上ヨリ事件以來處ニ極々輻輳往來頻繁ヲ加ルニ
係ラス陸路依然トシテ峻惡崎嶇カカ為メ車馬往來ニ痛セ
ス之友シテ海路ハ風光明媚ノ漢江眺アルヲ以テ運船便ニヨリ
往來凡ソ公衆人ノ最モ希望スル所ナルヲ以テ稅署長ニ於テ
モ之ヲ點許セサルヲ得サルモノト存ス而テ本邦人所有運船カ公
然船頭我國國旗ヲ懸シテ航行ヲナスニ至リ九月本年三月
頃ヨリニシテ其以前ハ韓人名義ヲ藉リテ往來既ニ居ル
モノ有之現今於テモ尚未稅署ノ届出ノ解船ノ名義ヲ用
キル由是ハ麻南回航章程ニ已ハ帆船航行ハ差支ナカ
故有之云然今若シ當館に於テ規則シ當事者為
ス所ニ任シ敢テ其間ニ干渉ヲ為セル次第有之矣然レ今若
シ當館に於テ規則ヲ履行シ嚴重ノ取締ヲ在レカ當事者



忽々其手續之繁冗ナルヲ恐レ依然前如ク韓人多義ヲ藉リ
 其霸東ヲ免ルニ至ルノ左ニ折角彼於テ黙許ス所
 ノ利益等凡慣例ヲ我自ラは絶スノ結果ヲ生シ大ニ我ノ利益
 相成ラフハ向論ニ其得共亦一方ヲ觀察スルニ其取締之實
 大ニ其方為テ後自貴重ノ人等ヲ擯スルノ有之ニ其當
 局者ノ落度モ亦免レ難ク付小官ニ為レ得ん大簡便ヲ手統
 申リ商賣ノ取締法ヲ設ケ嚴守シ之ヲ遵守セシムル様ニ取計
 シ就テ昨年七月二十三日付送カ八十四號ヲ以テ内申越ノ趣
 意ヲ擴充シ本邦ニ歸航セ共ト燕京船獨リ高船會社ノ船
 船限ラズ其般船對シテモ高船會社ノ直ニ接洽証ヲ
 下付レ得ル様ニ致シ其間可然其筋ハ已阻會社ノ度其般
 取併セ及日申矣教具ニ

明治三十年八月十二日

在朝鮮國仁川港

日本領事館

在行

領事館事務理員島本



外務次官原敬殿

海峽船隻山丸船隻

一海峽船隻山丸船隻 五船中人四

一積載船隻 三船中人

但上乗客八人 船中人二人 函物四箱 水若干

右之海峽船隻山丸船隻引船隻後ヲ引キ本月七日午未
才十時三十分乗客道志山津出帆所シ有仁川港、向航
海ノ途ニ着キ多ク同。亦日手板白右要當乗客キタルノ時
之海水ニ手水ヲ引キ五尺舟水量方山高船同リ乗客
才三時三十分頃乗客道志山津沖合ニ於テ停舟後復
上乗客航路十九日乗客モ位方之通リ航路仕度其要當同リキ時

海峽：乗上ク
同轉セトスルナキ船ハ左側ニ傾斜シタルト同時ニ乗客ノ狼狽ト所
事ニ水激流治リ舟船ハ左右ニ動揺スル一二回ニシテ三回用
ニ至リ左側ニ傾復テシヨリ以テ舟船ニ一ト全カキ乗
テ人々舟船ノ力ニ舟船運送之忘テテ舟船ニ乗客五人
体ノ上ニ船ニ乗セリ引船、乗客五人ヲ船乗セリヨリ、然レ而一
船接ヲセタルニシヨリ浦ヨリ轉入於五人ヲ轉船大十二隻ヲ以テ
乗接セルニ乗客乗客四艘ハト舟船之一回ハ海峽ヲ船ニ乗
移リ直ニシヨリ浦ノ方、浦着キタルノ際舟船ニ乗接シテ舟
乗接、然レ海峽引船舟ノ乗接キタル舟同乗客五人ノ舟
五人一沈没船深海ニ沈没シ引船ニ乗客置キテ轉入於四人
モ上陸キ新嘉坡ニ入ル船隻四人ハ引船舟ニ乗リシヨリ浦ヲ登



童山号途難救助始末書

弊在江坂童山間航廻小恙気順明号本年八月
四日午前七時仁河港より出航して上童山より河水増漲して
上童山より河内河水測量を待つ所前日途中
別子大曲九分園所にて波瀾致し船を後八月七日に至り稍
々河内へ測量せしむるに午後五時汽艇ヲ調
得サ核船セトスルに際し彼激流に連レテ進行し未
ル者童山号より如何に御座るか進行ヲ止メシメテ
両眼鏡より彼を進行船ヲ望見スルに航路ヲ誤
ラシキ波見セリ望見之内に船体撞シトスルに付
弊船ノ噴吐口より煙火ノ多量ヲ付テ夕刻に最良院邊に
着キ舟中乗客上陸ヲ救助シテ當日上童山見付セ
乗客乗船四名乗員四名、夜食ヲ喫シ八月
八日午前二時當地に歸航シテ乗客若し上陸セシモノ
右途難者、救助人員並に日本人田力前船主人
日本人乗客清國人船人朝鮮人船人乗
員四人右ノ通リ行キ上童山に在リ也

順正号救助所

明治三十八年八月十日

市丸定七由



第九一號

明治二十八年八月二十一日起
廿八年八月廿一日發遣

通商局長

主作

親展

外務省通商局長藤井三郎

通行者官船長佐藤香殿

仁川龍山官船の船長佐藤方之竹殿

朝鮮仁川龍山官船の船長佐藤方之竹殿

三十年一月九日龍山官船

本規、検査多量又免状ヲ有る事由、稟 龍山

官船、江華島附近に於て 沈没シ、龍山

官船長、如キモ 本規、免状ヲ有る事由、付シテ

右官船、二隻 免状ヲ有る事由、付シテ

之世、其に 仁川龍山官船、に於て 沈没シ、然レ

又、其に 仁川龍山官船、に於て 沈没シ、然レ

増、其に 仁川龍山官船、に於て 沈没シ、然レ

任、其に 仁川龍山官船、に於て 沈没シ、然レ

急ラ板板最重ノ事ニ付、其ノ中ニ定法果爲任ハ
 多ク、其ノ交通ヲ阻害スル爲メ、此ノ邊境ニ絶
 ヘシ漕節更シ、船ノ困難、故所タル船ノ更
 状ヲ有スルニ付、不充分ニシテ、實ニ和船ヲ更
 生スル事、其ノ難ニ難シク、其ノ必要ヲ要スル所
 更布ク、其ノ時權臣、其ノ事ヲ其ノ事ニ更
 以テ世向方之者、船ノ不充分ニ更シテ、其ノ事
 任、其ノ任ニ任、其ノ事、其ノ事、其ノ事、其ノ事
 外務省

申達之書

追名龍山多生雅沈没、世没ニみ我寫ニ
示御書書也

不承、其レハ何由信ノ彼ノ書也、唯、其年ノ事ナリ
其レニ白テ其ノ為ニ書カレリ

外務省

日八九月二日發
主官 通商局

政務局

發第 四六

仁川秋山間ノ水路ハ仁京兩地ヲ往來スル核
 骨貨物ハ多ク之ニ依リ目下日本ノ持ノ小
 蒸氣船ヲ其間ニ走ラセ運送ノ便利ヲ圖リ
 居美慶右ノ小蒸氣船多ク先般若ク八廣船
 ヲ修繕シタルモノニテ蒸氣罐ノキハ孰シモ危險
 ノ掛念アリ加之乗組ノ船長機關士モ多ク
 ハ素人ニテ免許ヲ有セズ之レガ為ニ内外人共
 クシテ各該蒸氣船ニ向リテ不安ヲ懷キ何卒
 之ヲ廢止ヲ設ケテ之ヲ取締リ且リ検査ヲ
 行ハントノ議ヲ立ワルモノ有之候得共我領
 事館ニテノ素ヨリ之ヲ行フノ權權ナク且
 ヲ總令之ヲ行フトシテモ右等蒸氣船持主
 ハ表面之ヲ相解シテ實渡シタル形ヲ為シ其名
 前ヨリテ通航セシムル片ハ我ヨリ手ヲ下スル得
 ガルヲ以テ今日迄危險ヲ知りワ、不得已放任
 シ來リ至慶今般同兩地間ヲ往復スル本
 邦人所有ノ小蒸氣船乗組海員ニ對シ
 仁川領事館ヨリ及検査証下附ノ義務
 其筋ト御取議相成度旨勸息領事館
 事務代行ヨリ幸書具陳及候申出
 有之候依テ之馬下般同被テ慶右ノ後未
 ノ危險ヲ或カシメン云果、利益ヲ維持スル
 ヲニテ實際必要ノ處置ニ可有之ト存候附外
 際石辭去ハ如何ニテモ成立候條其
 筋ト御取議相成度且又該小蒸氣船検査

七-八

三十年一月九日 在朝鮮國日本公使館

ノ義ニ傳法ヲ設ケ實ハニ至リテ義ヲ傳フヤ脚
註議相成度候時又右等ノ辨法實施ニ條シ
彼等ノ第一ニ名義ヲ相解入ニ借リ之邊ニ
トシタル爲合ニ更ニ朝鮮政府ト協議シテ之
後才ニ道可自下存莫則幾重ニ之
註議相成候様致度矣
右具申及儀也

明治廿一年八月廿三日
寺倉權公侯伯寺井上



外務大臣臨時代理
文部大臣侯爵西園寺公望殿

在朝鮮國日本公使館



明治廿八年九月二日 通信省 主官 通商局

第四一七二號

七五四四

客月廿一日付親展送芽一九號ヲ以テ朝鮮國仁川
 龍山間航行ノ船舶検査ノ件及小蒸汽船龍山号座
 礁ノ件ニ関シ縷々御申越ノ趣ヲ承右検査ノ義ニ
 関シテハ明治廿六年十二月廿七日付管芽一八号及
 昨廿七年七月十九日付管芽六七号ヲ以テ當省大臣
 ヲリ貴省、照會相成候旨趣ニ依リ大阪商船
 株式會社所有船又ハ官用船、ミナラス爾餘、船
 船ニ對シテモ同様領事ニ於テ取扱相成候様致
 度且龍山號ノ座礁ニ関シ一時權宜ノ處置ヲ施
 カレタル件并ニ今後適當ノ取締法ヲ必要トセラ
 ル、義トモ至極御同感ニ有之就テハ此等ノ船舶
 檢驗手續ハ職負ノ制限ハ明治十四年十二月發布芽
 第七十五號布告西洋形船々長運轉手機関手免
 狀規則芽九條ニ依リ可然處理相成候様致度尤
 モ汽船拾噸帆船貳拾噸以下及湖川港灣ヲ限リ運
 轉スル船舶ハ登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサルノ制
 規ニ有之隨テ此等ノ船舶ハ成規ノ免狀ヲ有ス
 ル船長ヲ乗組シムルキ規定無之唯汽船ニ在テハ右芽九條芽
 三項ニ依リ成規ノ免狀ヲ有スル機関手ノ乗組ヲ要スヘキニ付
 右等御參酌相成便宜御取扱相成候様致度此段及
 御同答候也

明治廿八年九月二日

通信省管船局長佐藤秀顯



外務省通商局長藤井三郎殿

明治六年九月七日

記録係長



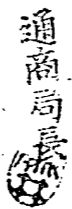
簿書



19

明治六年九月七日
同日 年 月 日 發遣

通商局長



主任

決官

在任の

外務次官原

龍山号主難沈没并仁川龍山号船自小蓋

流龍云降言ニ付実月十日付公行力一ニ向多ク
テ難ニ事力裁ニ裁テ承取ニ舟上ニ便リ申中ノ
況亦更古し且実海上に船切ノ至至トニ考ル付
至前、以候儀ハ至大坂多龍株式会社ニ官用
龍ノミナズル餘、龍船ニ對シテモ口探候事ニ於
テ取相ノ候付、且龍山号ノ産難ニ関シ、一時權
限ノ至至ヲ龍サレリハ、何事、今以通商、云揚法
ラ必要トセリ、蓋トモ至極口感、右ノ旨、佐藤

龍山号主難沈没并仁川龍山号船自小蓋

通即、五條法考案之上本、一可也出
仁^在、乃初令、一系、
方、
方、

外務省

3-2067

0023

大官

廿八日十月十九日 主管通商局

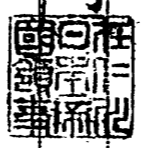
公第二〇八號

九一五九

仁川龍山間航行ニ蒸氣船取締方件付呈奉。委曲
又具申。置其處本月七日付送第一三七號。以本官
於適當ノ取締法ヲ考案シ實施ノ前ニ應可及。回審
旨御訓示之趣致致承天。仍之。實情參酌。上專
之明治二十六年通信令第十六號。及明治十四年布告
第七十五號ノ規定。準據。以。起案。致。其。付。查
院。上。差。丈。八。八。可。成。至。急。案。施。款。台。致。度。及。於。段。申。道。其
敬具。

明治二十六年十月十日

一等類事橋口直右三



外務次官原敬

在朝鮮國仁川港 日本領事館

追テ本則。實。托。曉。ハ。自。然。郵。船。商。船。兩。人。會。社。所。屬。海。貨
ヲ。シ。テ。檢。査。ニ。從。事。セ。シ。允。必。要。生。ズ。付。預。メ。同。會。社。
其。旨。下。會。有。之。様。其。旨。ハ。併。テ。以。照。會。至。一。相。成。度。以
段。申。添。其。也。

仁川龍山間航行ノ蒸氣船

取締規則草案

- 一、日本人所有ノ船舶ニシテ仁川龍山間航行スルモノハ總テ當館ニ於テ其検査ヲ受クベシ
- 二、検査ニ專ラ明治二十六年通信省令第十八號西洋形船舶検査規則ニ準據シ當館員現場ニ立會シ海技免状ヲ有スル適當ノ技術者ツラシメテ之ヲ為サシム
- 三、本規則第二條ニ依リ検査ヲ經タル船舶ハ當館員検査證書ヲ交附スベシ
- 四、十噸以下ノ汽船ハ第二條ノ例ニ依ラス別當館ニ於テ適當ノ認可メテ之ヲ検査スルベシ
- 五、十噸以上ノ汽船乙種免状ニ等運轉手若シハ小形船舶長或ハ小形船舶操手ノ内一人ヲ必ス乗組マシムベシ
- 六、船舶検査及海員取締ニ關スルモノニテ本規則規定ナキモノハ總テ船舶検査規則及西洋形船舶検査規則規定ヲ適用ス

在朝鮮國仁川港

日本領事館

出賃者令第十八号
規則ナリ政ニ規則ヲ

船舶検査規則
及西洋形船舶
検査規則
ハキリテカ
船舶検査
船舶検査
トク得

3-2067

0025

蒸気船

龍山間航行スルモ、八総

ベシ

通信者令第十八號西洋

し當館直現場、立會

術者ツレテ之ヲ為サシム

ヲ經ルル船舶ニハ當館ヨリ

例、依ラズ別當館、ホテ

檢査スルベシ

二等軍艦手若クハ小形船

人ヲ必ス乗組マシムベシ

日本領事館

ルモニシテ本則、規定ナ

則及西洋形船舶檢査規

通信者令第十八号、西洋形船舶檢査
規則ヲ改訂規則、改訂專字

船舶檢査規則及西洋形船舶檢査規則トテ、西洋形船舶檢査規則
及西洋形船舶檢査規則ノ誤記ナシカ且海員取締ニ関スル規定ハ誤
規、外ナルヲ以テ之ヲ刪リ又一、該規則直ニ施行シ能ハル場合
ハ之ヲ以テ之ヲ如ク修正

船舶檢査ニ關スル事項ニシテ本則、規定ナキモ、西洋形
船舶檢査規則及西洋形船舶檢査規則、規定ヲ適用スル
ヲ得

明治廿八年十一月二日發遣

通商局長

主任

親展

外務省通商局長為井之郎
逕行省署私印長代及考題殿

朝鮮正仁川龍山間航運、汽船、突急衰

三十年一月九日記録課

外務省

龍山号吐煙、例无之其元歸必要、旨
因汽船事、有、票、申、出、升、定、取、中、進、意、知
本年九月廿四一七二号、以、所、回、答、其
茲、依、所、以、修、訂、之、例、而、改、定、今、般、別、成、字
、通、り、出、給、出、案、ヲ、具、シ、申、越、シ、依、テ、一、應、査
閱、上、修、正、適、宜、ノ、認、メ、付、附、録、ヲ、附、シ、差、出、
乃、時、之、間、上、尚、必、要、ノ、修、正、有、キ、ハ、所、事、業、和
成、交、且、候、案、外、ニ、条、適、宜、杜、切、者、ヲ、シ、テ

浄書風校正原

控査せらるるに、同領事、意見三、郵私會
社、商私會社、不屬海員ヲシテ、候控査ニ
從事せしむるに、有之其次、才像、候每社へ
下^帝有之、故旨申す、右、兩社、於テ、別段
派員、及、其定期、私不屬員ヲシテ、確泊中
都合ヲ見斗ヒ、囑托スル事、候、差支の起シ
ト、此存、另時、同意、候、該社、下、命、可、此
所、立斗、亦、必、此、段、申、進、也

外務省
(郵私)

別紙ハ、何、素、五、才、二、八、号、附、屬、規、則、案、及、附、屬、規、則、案、字、ナリ



第一一第受

外務省通商局 官署第四一七二號

本月二日付親展送第ニ五號ヲ以テ朝
 鮮國仁川領事ニ於テ仁川龍山周航行ノ
 小蒸氣船取締規則ヲ被設及趣ヲ以テ
 該規則案添付御照會、趣了兼該規
 則設定ノ義ハ御同意ニ有之依ヲ馬ト該案
 調査ノ末別紙ノ通修正追加相成可然被
 存候御再調相成及又該案第ニ條適
 審、技術者云々ハ郵船會社若クハ商船會社
 ノ定期船破泊中其所屬海員ニ囑托セラ
 ル、領事ノ意見ハ不得止義ト被存矣就
 右囑托ノ海員ハ可成甲種免狀受有者ヲ
 選定相成矣様致及且右囑托ノ義ヲ審局

ヨリ右兩會社ニ下命可致様御申越ノ處當
 局ニ於テハ右囑托ニ應セシムキ様兩會社ニ
 訓致シ置矣積ニ有之候間右様御承知相
 成及致段及御固答矣也

明治十八年十一月十五日

遞信省管船局長佐藤秀顯



外務省通商局長藤井三郎殿

仁川龍山間航行ノ小艇氣艇取締規則草案
一 原案ノ通

二 原案中當館自現場ニ立會云々ハ綴令ヒ技術者ニ検査ヲ囑託スルモ領事館ノ検査員ト看做スハキ等ニ付規則ノ條文ニハ明記セサル方可ナラン囑託ハ内規トセラレ支障ナカルヘシ依テ本條ハ左ノ如ク修正アラニコトヲ望ム

二 検査ハ明治十七年第三拾號布告西洋形船舶検査規則明治二十六年通信省令第十八號西洋形船舶検査細則及同年通信省訓令第七號西洋形船舶検査手續ニ準據シ之ヲ執行スヘシ

三 原案ノ通

四 検査手續第十七條ニ近海航船以下ノ船舶ハ検査ヲ省略シ得ルノ明文アルヲ以テ本條ハ削除アラレコトヲ望ム

五 西洋形船舶組織職負ノ制限ハ明治十四年第七十五號布告西洋形船舶長運轉手操縦手免狀規則ニ規定シアルヲ以テ一般ノ船主ハ之ヲ遵奉セサルヘカラサルモノトス殊ニ本條ヲ設クルノ必要ナカルヘシ依テ本條ハ削除アラニコトヲ望ム然レトモ水路ノ状況ニ依リ取締上實際運轉ニ通曉ノ者ヲ要スルニ於テハ免狀受有者ト限ラズ單ニ領事館ノ認可アル者ヲ兼組シムルコトニ定メラル、方然ル

へし

六 本條ハ已ニ第二條ニ掲クル法令ノ範圍ニ屬
シ別ニ條支ヲ設クルノ必要ナカルヘシ依テ
本條ハ削除アラシムコトヲ望ム

本則第四條トシテ更ニ左ノ一條追加アラシ
ムコトヲ望ム

四 夜間航行中ハ明治二十五年法律第五條涉
上衝突豫防法ニ規定スル船燈ヲ掲クヘシ

明治二十八年十一月二十日起草三九次部
同日廿一年十一月廿二日發遣

通商局長

土佐

淨書屋圖書印

大官

機密

在仁川
牙領事携口直右衛門殿

外務次官原 敬

仁川龍山向航行ノ小蒸汽船取請方ニ付請

南ノ方法貴官ニ於テ考察相成實施前ニ一應

三十年一月九日記録課

外務省

本省御差中相成度旨量ニ申進候込右ノ実

情參酌之上專ニ明治二十六年通信省令第廿六

号及明治十四年布告第廿五号ノ規定ニ準據

ニ起察相成候趣ヲ以テ去月十一日附公身ニ〇八

号ヲ以テ右草察相添御申越之趣了承本察

ハ通信省トモ協議之上別紙之通修ニ追加致

候ニ付右修ニ通ヒテ御差支無之候ハ直ニ

實施相成候様致度將又合察身ニ条觸南

送第ニ九番

技術者之ニ郵船会社若シテ商船会社ノ定期
船停泊中其ノ時屬海員ニ囑托セラルル貴官ノ
御意見ハ不得也義ト被存候ニ就テ右囑托
ノ海員ハ可成甲種免状受有者ヲ選定相成度
該商船社ハ右囑托ニ應セシムルキ様内訓致置
候旨通信者ヨリ申越候間右様御了承相
成度此段申進候也

(別紙ニ写ラ送付ス)

外務省

仁川龍山向航行ノ小蒸汽船取締規則

草案

一 原案ノ通

二 原案中尙館員現場ニ立會之クハ縦令ニ技術者ニ検査ヲ囑托スルモ領事館ノ検査員ト看做スヘキヲ以テ右囑托ハ内規トシ規則ノ條文ハ明託セラルヲ可トス依テ本條ハ左ニ通修正セリ

外務省

二 検査ハ明治十七年第三十号布告西洋形船舶
検査規則明治二十六年通信省令第十八号西洋形船舶検査細則及今年通信省訓令第七号西洋形船舶検査手續ニ準據シテ之ヲ執行スヘシ

三 原案ノ通

四 検査手續第七條ニ近海航船以下ノ船舶ハ検査ヲ省略シ得ルノ明文アルヲ以テ本條ハ削除シ本則第四條トシテ左ノ一條ヲ追加セリ

四夜間航行中ハ明治二十五年法律第五号海上衝突豫防法ニ規言ニル船燈ヲ掲クシ

五西洋形船乗組職負ノ制限ハ明治十四年第七十五号布告西洋形船々長運轉手職関手免状規

則ニ規言シアルラハテ一般ノ船主ハ之ヲ遵奉セサルヘカラサルヲ以テ特ニ本條ヲ設クルノ必要ナカルニ依

テ本條ハ左ノ通修ニモリ
五水路ノ狀況ニ依リ領事ニ於テ運轉ニ通曉ニタル

者ノ乗組ヲ必要ト認ケル場合ニ於テ免状受有者ニ限リ

領事ニ於テ免状受有者ニ限リ
者ニ限リ

六本條ハ此ニ係リ條ニ掲ケル法令ノ範圍ニ屬シ別ニ條文ヲ設クルノ必要ナカルニ依テ本條ハ削除ス

外務省